

委員会審議	平成29年4月20日
-------	------------

申請者	病理診断部長	南 優子
1	悪性胸膜中皮腫の前方視的データベース研究	
研究の概要	悪性胸膜中皮腫の発生には、石綿の曝露が大きく関与しており、曝露からの潜伏期間が30-40年と言われており、我が国では2020年から2030年代がピークとなる見込みで、近年、国際的に共通の病期の確立の必要性が認識され、世界肺癌学会と国際中皮腫研究会が中心となった後方視的国際データベース事業がおこなわれ、我が国からも世界で5番目に多い症例を登録している。しかしこのデータベースでは、悪性胸膜中皮腫治療の真の現状を反映していないので、本邦の肺癌登録合同委員会が悪性胸膜中皮腫症例の前方視的データベース事業を行うことになり、当院もその1施設となった。	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された

z

委員会審議	平成29年4月20日
-------	------------

申請者	副院長	林原 賢司
2	第57回日本呼吸器学会学術集会の症例報告「肺癌化学療法中に急速進行性肺結核を合併した小細胞肺癌の1例」	
研究の概要	本症例は肺癌の化学療法中に1週間の経過で急速に肺結核を発症するという希少な症例であり、臨床的に重症な症例であるため、第57回日本呼吸器学会で報告する。	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された

委員会審議	平成29年4月20日
-------	------------